

ふるさとの潮の遠音のわが胸に

ひびくをおぼゆ初夏の雲

歌 意

初夏の青空に浮かぶ白い雲を見ていますと、いつしか胸の中にふるさとの潮の遠音が響いて来るように思われます。

掲出歌集 『舞姫』明治39（1906）年1月  
初出 「明星」明治38年6月 題は「はなたちばな」  
（晶子27歳）

- 所在地  
南海本線堺駅西口駅前広場  
(堺区戎島町4丁45-1)
- 建 立  
平成10年5月29日  
堺陵東ライオンズクラブ
- デザイン  
玉野勢三(彫刻家)
- 書  
草野明子(書家)



晶子ブロンズ立像と歌碑

平成10(1998)年5月29日、晶子生誕120年と堺陵東ライオンズクラブ25周年を記念して、同ライオンズクラブが「堺時代の晶子像(等身大)をぜひ建てたい」と歌碑とともに建立した。

除幕式は、白桜忌開催のあと、現ホテル・アゴーラリージェンシー大阪堺前で、幡谷豪男市長(当時)らによって行われた。その後、ホテルで、与謝野晶子倶楽部難波利三会長(当時)の記念講演も行われた。

『舞姫』の中にふるさとを歌った歌は5首あるが、この歌と「ちぬの浦いさな寄るなるをちかたはひねもす霞む海恋しけれ」の2首に懐郷の念があふれている。

※建立当初は、晶子の右手に筆、左手に短冊があったが、現在はない。